

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年11月12日
【四半期会計期間】	第135期第2四半期（自 2021年7月1日 至 2021年9月30日）
【会社名】	日本郵船株式会社
【英訳名】	Nippon Yusen Kabushiki Kaisha
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長・社長執行役員 長 澤 仁 志
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内二丁目3番2号
【電話番号】	03 - 3284 - 5151
【事務連絡者氏名】	主計グループ長 山 本 敬 志
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内二丁目3番2号
【電話番号】	03 - 3284 - 5151
【事務連絡者氏名】	主計グループ長 山 本 敬 志
【縦覧に供する場所】	日本郵船株式会社横浜支店 （横浜市中区海岸通三丁目9番地） 日本郵船株式会社名古屋支店 （名古屋市中区錦二丁目3番4号） 日本郵船株式会社関西支店 （神戸市中央区海岸通一丁目1番1号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第134期 第2四半期 連結累計期間	第135期 第2四半期 連結累計期間	第134期
会計期間	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高 (百万円)	722,031	1,051,381	1,608,414
経常利益 (百万円)	47,428	397,246	215,336
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	22,180	411,319	139,228
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	15,180	434,355	178,212
純資産額 (百万円)	510,612	1,074,175	667,411
総資産額 (百万円)	1,901,705	2,395,332	2,125,480
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	131.37	2,435.15	824.55
自己資本比率 (%)	24.8	43.1	29.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	67,469	109,996	159,336
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	22,602	5,656	16,871
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	40,885	135,726	125,483
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	80,778	79,430	103,593

回次	第134期 第2四半期 連結会計期間	第135期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	62.16	1,540.28

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっています。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した「第一部 企業情報 第2 事業の状況 2 事業等のリスク」について変更を要する重要事象等は発生していません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

(単位：億円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額	増減率
売上高	7,220	10,513	3,293	45.6%
営業損益	166	1,179	1,012	606.6%
経常損益	474	3,972	3,498	737.6%
親会社株主に帰属する四半期純損益	221	4,113	3,891	1,754.4%

当第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日までの6ヶ月間)の業績は、連結売上高1兆513億円(前年同四半期比3,293億円増)、営業利益1,179億円(前年同四半期比1,012億円増)、経常利益3,972億円(前年同四半期比3,498億円増)、親会社株主に帰属する四半期純利益4,113億円(前年同四半期比3,891億円増)となりました。

なお、当社持分法適用会社OCEAN NETWORK EXPRESS PTE. LTD.(“ONE社”)の好調な業績等により、営業外収益で持分法による投資利益として2,951億円を計上しました。うち、同社からの持分法による投資利益計上額は2,823億円となります。

当第2四半期連結累計期間の為替レートと消費燃料油価格の変動は以下のとおりです。

	前第2四半期 (6ヶ月)	当第2四半期 (6ヶ月)	差額
平均為替レート	106.82円/US\$	109.90円/US\$	3.07円 円安
平均消費燃料油価格	US\$379.90/MT	US\$477.42/MT	US\$97.52 高

(注) 為替レート・消費燃料油価格とも、当社社内値です。

(セグメント別概況)

当第2四半期連結累計期間のセグメント別概況は以下のとおりです。

(単位：億円)

		売上高				経常損益		
		前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額	増減率	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額
ロ ジ ス テ ィ & ク ス 事 業	定期船事業	813	940	126	15.6%	284	2,903	2,619
	航空運送事業	544	897	352	64.7%	132	330	197
	物流事業	2,350	3,773	1,422	60.5%	81	284	202
不定期専用船事業		3,179	4,569	1,389	43.7%	1	477	475
そ の 他 事 業	不動産業	34	24	10	29.2%	13	12	1
	その他の事業	588	717	129	22.0%	15	17	2

< 定期船事業 >

コンテナ船部門では、ONE社において、内陸輸送を担うドライバー不足等により港湾及び内陸部の混雑は緩和されず、サプライチェーン全体の混乱が続く中、引き続き旺盛な貨物需要を受け、需給は逼迫しました。主要航路では、北米航路は港湾混雑に起因する回転率の低下により減便を余儀なくされた結果、積高は前年同四半期を下回りましたが、欧州航路では増加しました。また、両航路において運賃・消席率は前年同四半期を上回り、欧州航路では特にスポット運賃の上昇が収支良化に大きく寄与しました。このような状況下、ONE社はコンテナ調達や臨時便投入、また船舶の航行スピードを増速することで、運航スケジュール遅延の最小化を図り、輸送スペースを最大限提供できるよう努めました。

国内及び海外ターミナルでは、ともに新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた前年同四半期から取扱量が回復しました。

以上の結果、定期船事業全体では前年同四半期比で増収増益となりました。

< 航空運送事業 >

航空運送事業では、新型コロナウイルス感染症の影響により国際旅客便の減便・運休が継続する一方、航空貨物の荷動きは自動車・半導体・e-Commerce関連貨物等を中心に堅調に推移しました。加えて、コンテナ船の輸送スペース不足や港湾混雑の影響により海上貨物の一部が航空輸送に切り替わる動きも継続し、例年夏枯れとなる7月・8月にも北米線・欧州線を中心に貨物搭載量・運賃ともに高い水準で推移しました。

以上の結果、航空運送事業全体では前年同四半期比で増収増益となりました。

< 物流事業 >

航空貨物取扱事業は、新型コロナウイルス感染症の影響で国際旅客便の減便・運休が継続したことによる供給スペースの減少に加え、第2四半期には中国における空港オペレーションの混乱が生じたことにより需給は逼迫しました。このような状況下、機動的な購買活動により輸送スペースを確保したことで取扱量は前年同四半期比で増加し、業績を牽引しました。

海上貨物取扱事業は、港湾混雑による船腹供給量の減少に伴い、スペース確保に苦慮しましたが、取扱量は前年同四半期比で増加しました。また高騰する仕入価格に販売価格が追い付き、利益水準が改善しました。

ロジスティクス事業は、需要の底堅い一般消費財を中心に前年同四半期比で取扱量が増加しました。

内航輸送事業は取扱量が前年同四半期比で増加しました。

以上の結果、物流事業全体では前年同四半期比で増収増益となりました。

< 不定期専用船事業 >

自動車輸送部門では、世界的な半導体不足や新型コロナウイルス感染症の影響に起因する自動車部品不足により完成車取扱台数への影響が懸念されましたが、最適な配船計画と航海スケジュールの策定、及び新規顧客の開拓や関係会社との協働による代替貨物の集荷により、前年同四半期比で取扱台数が回復しました。自動車物流は、国・地域ごとに自動車生産・販売の増減による需給影響が異なる中、各事業体が新規ビジネスの獲得や不採算ビジネスの整理に取り組む一方、エジプト・トルコでの完成車ターミナル開業に向けた準備を進め、事業ポートフォリオ改編に向けて活動しました。

ドライバルク輸送部門では、ケープサイズは、鉄鉱石の好調な荷動きを背景に3月から5月上旬にかけて市況が上昇した後、一旦調整局面に入りました。7月から9月のピークシーズンには、雨期が明けたブラジル出しの鉄鉱石の出荷が伸び、中国では度重なる台風・豪雨の被害や、新型コロナウイルス感染症の水際対策が強化されたことで再び滞船隻数が増加し、ケープサイズの市況は11年ぶりの高値となりました。パナマックスサイズは、年度初めの天候不順により南米出しの大豆の出荷が遅れた結果、大規模滞船が発生し船腹需給が引き締まる中、6月から7月にかけて天然ガス価格が石炭価格を上回り石炭調達が生活性化し、電力需要期を前に中国では石炭輸入が増加しました。8月には米国南部にハリケーンが上陸し穀物出荷・電力設備に被害を与えたものの、市況は前年同四半期を大きく上回る水準で推移しました。このような環境下、市況変動による収支影響を抑えるために先物取引を用いて収入を固定化するほか、長期契約獲得による収入の安定化と効率的な運航によるコスト削減に努めました。

エネルギー輸送部門では、5月以降にOPECプラスの協調減産が段階的に縮小されたものの、需給バランスは改善せず、VLCC（大型タンカー）と石油製品タンカーの市況は歴史的な低迷が続きました。VLGC（大型LPGタンカー）は、季節的な不要期に入ったことに加え、米国出しと中東出しのLPG価格差が縮小した結果、長距離輸送により輸送費が相対的に割高となる米国出しの取引が鈍化し、荷動きも減少したことで市況は前年同四半期を下回りました。タンカーは市況変動の影響を受ける短期契約の割合が限定的であるものの、前年同四半期比で市況の下落幅が非常に大きく、収支を悪化させる要因となりました。LNG船は安定的な収益を生む長期契約に支えられて順調に推移しました。また海洋事業はFPSO（浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備）、ドリルシップが順調に稼働しました。

以上の結果、不定期専用船事業全体では前年同四半期比で増収増益となりました。

< 不動産業、その他の事業 >

不動産業は堅調に推移しましたが、当社子会社株式の一部譲渡に伴い、前年同四半期比では減収減益となりました。またこの譲渡により、当第2四半期において約230億円の特別利益を計上しました。

その他の事業は、燃料油販売や化学製品製造販売事業は好調であった前年同四半期ほどは振るわなかった一方、技術サービス業は新型コロナウイルス感染症による影響が軽減し、工事案件や船用品・船用資材販売事業で復調が見られました。

客船事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部のクルーズ催行に留まりました。

以上の結果、その他の事業全体では前年同四半期比で増収となりましたが、損失を計上しました。

財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、受取手形及び営業未収入金の増加やONE社をはじめとする持分法適用会社の利益計上に伴い、投資有価証券が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ2,698億円増加し、2兆3,953億円となりました。長期借入金等の減少により有利子負債は1,121億円減少して8,389億円となり、負債合計額も前連結会計年度末に比べ1,369億円減少し、1兆3,211億円となりました。純資産の部では、利益剰余金が3,872億円増加し、株主資本とその他の包括利益累計額の合計である自己資本が1兆330億円となり、これに非支配株主持分410億円を加えた純資産の合計は1兆741億円となりました。これらにより、有利子負債自己資本比率（D/Eレシオ）は0.81に、また自己資本比率は43.1%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の四半期末残高は、期首残高比241億円減少し、794億円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益4,330億円、現金支出を伴わない減価償却費491億円、持分法による投資損益 2,951億円、利息及び配当金の受取額217億円等により1,099億円（前年同四半期674億円）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、船舶を中心とする固定資産の取得及び売却や子会社株式の一部売却等により56億円（前年同四半期 226億円）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済、配当金の支払い、社債の償還やリース債務返済等により 1,357億円（前年同四半期 408億円）となりました。

(3) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費の総額は383百万円です。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	298,355,000
計	298,355,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	170,055,098	170,055,098	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株です。
計	170,055,098	170,055,098	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年9月30日	-	170,055,098	-	144,319,833	-	30,191,857

(5)【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	東京都港区浜松町2 11 3	23,535	13.88
(株)日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1 8 12	9,528	5.62
三菱重工業(株)	東京都千代田区丸の内3 2 3	4,103	2.42
明治安田生命保険(相) (常任代理人 (株)日本カストディ銀行)	東京都千代田区丸の内2 1 1 (東京都中央区晴海1 8 12)	3,447	2.03
(株)日本カストディ銀行(信託口7)	東京都中央区晴海1 8 12	3,135	1.85
JPモルガン証券(株)	東京都千代田区丸の内2 7 3	3,007	1.77
東京海上日動火災保険(株)	東京都千代田区丸の内1 2 1	2,894	1.71
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234 (常任代理人 (株)みずほ銀行決済営業部)	1776 HERITAGE DRIVE, NORTH QUINCY, MA 02171, U.S.A. (東京都港区港南2 15 1)	2,858	1.69
日本証券金融(株)	東京都中央区日本橋茅場町1 2 10	2,397	1.41
JP MORGAN CHASE BANK 385781 (常任代理人 (株)みずほ銀行決済営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南2 15 1)	2,074	1.22
計	-	56,983	33.61

(注) 2021年9月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有(変更)報告書において、(株)みずほ銀行及びその共同保有者が2021年8月31日現在でそれぞれ以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めていません。

なお、大量保有(変更)報告書の内容は以下のとおりです。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
(株)みずほ銀行	東京都千代田区大手町1 - 5 - 5	1,143	0.67
みずほ証券(株)	東京都千代田区大手町1 - 5 - 1	722	0.42
アセットマネジメントOne(株)	東京都千代田区丸の内1 - 8 - 2	5,876	3.46
計	-	7,741	4.55

(6)【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 504,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 168,892,100	1,688,921	-
単元未満株式	普通株式 658,198	-	-
発行済株式総数	170,055,098	-	-
総株主の議決権	-	1,688,921	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式1,400株(議決権14個)及び日本マスタートラスト信託銀行(株)(役員報酬BIP信託口)が所有する当社株式592,000株(議決権5,920個)が含まれています。

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本郵船(株)(注)1, 2	東京都千代田区丸の内 2 - 3 - 2	502,500	-	502,500	0.29
日本港運(株)	神戸市中央区海岸通 5 - 1 - 3	800	-	800	0.00
三洋海事(株)	兵庫県尼崎市中在家町 3 - 449	1,500	-	1,500	0.00
計	-	504,800	-	504,800	0.29

(注) 1. 株主名簿上は当社名義となっていますが、実質的に所有していない株式50株(議決権0個)があります。

なお、当該株式数は「発行済株式」の「単元未満株式」欄の普通株式に含まれています。

2. 日本マスタートラスト信託銀行(株)(役員報酬BIP信託口)が所有する当社株式592,000株(議決権5,920個)は含まれていません。

2【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）及び「海運企業財務諸表準則」（昭和29年運輸省告示第431号）に基づいて作成しています。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（自 2021年7月1日 至 2021年9月30日）及び第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けています。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	722,031	1,051,381
売上原価	628,370	847,555
売上総利益	93,660	203,826
販売費及び一般管理費	1 76,969	1 85,893
営業利益	16,690	117,933
営業外収益		
受取利息	1,221	993
受取配当金	3,379	4,277
持分法による投資利益	35,394	295,152
為替差益	-	2,381
その他	3,600	2,502
営業外収益合計	43,595	305,306
営業外費用		
支払利息	9,004	6,671
為替差損	1,136	-
デリバティブ損失	1,864	18,178
その他	852	1,142
営業外費用合計	12,858	25,993
経常利益	47,428	397,246
特別利益		
固定資産売却益	7,185	8,806
関係会社株式売却益	80	28,833
その他	3,219	1,162
特別利益合計	10,485	38,802
特別損失		
固定資産売却損	79	15
契約損失引当金繰入額	2 17,567	-
その他	10,351	3,029
特別損失合計	27,998	3,044
税金等調整前四半期純利益	29,916	433,004
法人税等	5,572	18,373
四半期純利益	24,343	414,631
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,162	3,311
親会社株主に帰属する四半期純利益	22,180	411,319

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	24,343	414,631
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,421	2,157
繰延ヘッジ損益	235	483
為替換算調整勘定	287	3,599
退職給付に係る調整額	927	415
持分法適用会社に対する持分相当額	10,179	21,099
その他の包括利益合計	9,162	19,724
四半期包括利益	15,180	434,355
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,036	431,669
非支配株主に係る四半期包括利益	2,144	2,686

(2)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	107,369	82,908
受取手形及び営業未収入金	234,909	287,970
契約資産	-	15,204
有価証券	144	146
棚卸資産	1 37,619	1 41,358
繰延及び前払費用	56,438	32,372
その他	104,108	81,873
貸倒引当金	2,101	2,436
流動資産合計	538,488	539,398
固定資産		
有形固定資産		
船舶（純額）	534,378	510,910
建物及び構築物（純額）	109,198	96,335
航空機（純額）	35,838	34,562
機械装置及び運搬具（純額）	26,040	26,670
器具及び備品（純額）	5,303	5,152
土地	86,912	71,468
建設仮勘定	44,704	63,573
その他（純額）	5,314	5,008
有形固定資産合計	847,689	813,682
無形固定資産		
借地権	4,912	4,849
ソフトウェア	5,768	5,775
のれん	10,190	9,308
その他	3,408	3,293
無形固定資産合計	24,279	23,225
投資その他の資産		
投資有価証券	578,892	874,564
長期貸付金	21,393	24,320
退職給付に係る資産	60,339	61,111
繰延税金資産	6,110	6,365
その他	53,393	57,766
貸倒引当金	5,350	5,406
投資その他の資産合計	714,779	1,018,720
固定資産合計	1,586,748	1,855,629
繰延資産	243	305
資産合計	2,125,480	2,395,332

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	168,690	174,701
1年内償還予定の社債	25,000	30,000
短期借入金	161,045	133,663
リース債務	19,477	19,007
未払法人税等	14,390	14,630
契約負債	-	34,128
賞与引当金	14,063	11,035
役員賞与引当金	366	243
株式給付引当金	170	856
契約損失引当金	14,364	4,656
事業再編関連引当金	3	3
その他	124,691	93,310
流動負債合計	542,262	516,238
固定負債		
社債	107,000	97,000
長期借入金	560,913	484,452
リース債務	77,707	74,855
繰延税金負債	64,718	64,202
退職給付に係る負債	16,697	16,452
役員退職慰労引当金	979	750
株式給付引当金	551	-
特別修繕引当金	14,595	15,846
契約損失引当金	52,071	34,713
事業再編関連引当金	927	844
その他	19,645	15,801
固定負債合計	915,805	804,919
負債合計	1,458,068	1,321,157
純資産の部		
株主資本		
資本金	144,319	144,319
資本剰余金	44,214	44,243
利益剰余金	444,801	832,025
自己株式	3,381	3,235
株主資本合計	629,954	1,017,353
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,004	24,149
繰延ヘッジ損益	29,187	25,851
為替換算調整勘定	11,365	3,846
退職給付に係る調整累計額	13,927	13,584
その他の包括利益累計額合計	4,621	15,728
非支配株主持分	42,078	41,093
純資産合計	667,411	1,074,175
負債純資産合計	2,125,480	2,395,332

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	29,916	433,004
減価償却費	49,329	49,158
減損損失	8,341	144
有形及び無形固定資産除売却損益(は益)	7,032	8,649
有価証券及び投資有価証券売却損益(は益)	936	28,959
有価証券及び投資有価証券評価損益(は益)	198	8
持分法による投資損益(は益)	35,394	295,152
受取利息及び受取配当金	4,601	5,271
支払利息	9,004	6,671
為替差損益(は益)	582	2,055
売上債権の増減額(は増加)	13,141	21,331
棚卸資産の増減額(は増加)	2,607	4,736
仕入債務の増減額(は減少)	11,083	171
契約損失引当金の増減額(は減少)	13,681	27,066
その他	3,583	8,316
小計	64,173	108,021
利息及び配当金の受取額	10,572	21,788
利息の支払額	9,728	6,615
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	2,451	13,197
営業活動によるキャッシュ・フロー	67,469	109,996
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	51,423	38,098
有形及び無形固定資産の売却による収入	14,401	19,942
投資有価証券の取得による支出	6,029	7,390
投資有価証券の売却及び償還による収入	11,758	1,038
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	348	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	-	1
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	0	35,772
貸付けによる支出	7,433	6,578
貸付金の回収による収入	13,816	4,358
その他	2,656	3,386
投資活動によるキャッシュ・フロー	22,602	5,656

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	58,492	33
コマーシャル・ペーパーの純増減額（ は減少）	1,000	-
長期借入れによる収入	81,005	11,202
長期借入金の返済による支出	27,484	100,801
社債の発行による収入	-	19,892
社債の償還による支出	20,000	25,000
リース債務の返済による支出	9,548	10,506
非支配株主からの払込みによる収入	1,221	5,976
自己株式の取得による支出	3	38
自己株式の売却による収入	27	290
配当金の支払額	3,391	30,520
非支配株主への配当金の支払額	1,410	2,344
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の 取得による支出	879	-
その他	928	3,843
財務活動によるキャッシュ・フロー	40,885	135,726
現金及び現金同等物に係る換算差額	442	4,097
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	3,539	24,171
現金及び現金同等物の期首残高	77,092	103,593
連結の範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増減額（ は減少）	24	-
非連結子会社との合併に伴う現金及び 現金同等物の増加額	122	8
現金及び現金同等物の四半期末残高	80,778	79,430

【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しています。

この結果、従来の方法に比べて第1四半期連結会計期間の当期首残高は、主に受取手形及び営業未収入金は33,600百万円、契約資産は9,622百万円、支払手形及び営業未払金は5,991百万円、契約負債は24,640百万円、利益剰余金は6,467百万円それぞれ増加し、繰延及び前払費用は35,147百万円、流動負債のその他は30,521百万円それぞれ減少しています。

また、当第2四半期連結累計期間の売上高は12,269百万円、売上原価は10,053百万円、営業利益は2,215百万円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1,836百万円増加しています。当第2四半期連結会計期間の受取手形及び営業未収入金は43,723百万円、契約資産は10,044百万円、支払手形及び営業未払金は3,902百万円、契約負債は33,875百万円それぞれ増加し、繰延及び前払費用は49,976百万円、流動負債のその他は43,591百万円それぞれ減少しています。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしました。これにより、その他有価証券のうち時価のある株式については、従来、期末決算日前1ヶ月の市場価格等の平均に基づく時価法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より、期末決算日の市場価格等に基づく時価法に変更しています。

(追加情報)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社及び一部の連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいて会計処理を行っています。

(四半期連結損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうち主要なものは次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
従業員給与	33,400百万円	36,741百万円

2. 契約損失引当金繰入額

前第2四半期連結累計期間において、定期傭船している船舶の返船等に伴い発生する損失に備えるため、将来の損失見込額を計上したものです。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 棚卸資産の内訳

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
商品及び製品	1,818百万円	1,922百万円
仕掛品	676 "	671 "
原材料及び貯蔵品	35,123 "	38,764 "

2. 偶発債務

(1) 保証債務等

連結会社(当社及び連結子会社)以外の会社の金融機関からの借入れ等に対し、債務保証等を行っています。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
PE WHEATSTONE PTY LTD	39,356百万円	PE WHEATSTONE PTY LTD 37,382百万円
CAMERON LNG, LLC	17,140 "	MERO 2 OWNING B.V. 10,408 "
MERO 2 OWNING B.V.	10,296 "	BIGNONE LNG SHIPPING S.A.S. 9,168 "
AZALEE LNG SHIPPING S.A.S.	8,839 "	AZALEE LNG SHIPPING S.A.S. 8,929 "
CAROLINE 77	8,438 "	CAROLINE 77 8,530 "
LNG SAKURA SHIPPING CORPORATION	5,485 "	LNG SAKURA SHIPPING CORPORATION 5,211 "
YEBISU SHIPPING LTD.	4,844 "	YEBISU SHIPPING LTD. 4,770 "
OYAK NYK RO-RO LIMAN ISLETMELERI A.S.	3,376 "	OYAK NYK RO-RO LIMAN ISLETMELERI A.S. 4,029 "
CAMELIA LNG SHIPPING S.A.S.	2,532 "	CAROLINE 82 3,862 "
TATA NYK SHIPPING PTE. LTD.	2,208 "	CAMELIA LNG SHIPPING S.A.S. 3,234 "
BETA LULA CENTRAL S.A R.L.	1,756 "	TATA NYK SHIPPING PTE. LTD. 1,859 "
BIGNONE LNG SHIPPING S.A.S.	1,687 "	CAMERON LNG, LLC 1,837 "
ETESCO DRILLING SERVICES, LLC	1,471 "	BETA LULA CENTRAL S.A R.L. 1,775 "
LAVANDE LNG SHIPPING S.A.S.	1,194 "	ETESCO DRILLING SERVICES, LLC 1,289 "
従業員	51 "	LAVANDE LNG SHIPPING S.A.S. 1,201 "
その他20社	5,495 "	従業員 44 "
計	114,176百万円	その他23社 5,347 "
		計 108,883百万円

(注) 複数の保証人がいる連帯保証については、当社及び連結子会社の負担となる金額を記載しています。

(2) 当社及び連結子会社が船舶に関して締結しているオペレーティング・リース契約の一部には、残価保証の条項が含まれています。残価保証による潜在的な最大支払額は4,007百万円であり、当該オペレーティング・リース契約の購入選択権を行使せずにリース資産を返却することを選択した場合に支払いを実行する可能性があります。当該オペレーティング・リース契約は2022年1月までの間に終了します。なお、前連結会計年度からの変動はありません。

(3) 当社及び連結子会社が航空機に関して締結しているオペレーティング・リース契約の一部には、残価保証の条項が含まれています。残価保証による潜在的な最大支払額は42,110百万円であり、リース期間終了後に当該リース資産を返却することを選択した場合に支払いを実行する可能性があります。当該オペレーティング・リース契約は2026年12月までの間に終了します。なお、前連結会計年度からの変動はありません。

(4) 当社グループは、独占禁止法違反の疑いがあるとして、2012年9月以降自動車等の貨物輸送に関して複数の海外当局の調査対象となっています。また、完成自動車車両等の海上輸送について、主要自動車船社と共同して運賃を設定したとして、請求金額を特定しないまま損害賠償及び差し止め等を求める集団民事訴訟が複数の地域にて提起されています。

海外当局による調査及び民事上の損害賠償請求訴訟については、独禁法関連引当金に計上したものを除き、現時点ではそれらの結果を合理的に予測することは困難です。なお、前連結会計年度から重要な変動はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金勘定	83,218百万円	82,908百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	2,440 "	3,477 "
現金及び現金同等物	80,778百万円	79,430百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月29日 定時株主総会	普通株式	3,391	利益剰余金	20	2020年3月31日	2020年6月30日

(注) 2020年6月29日定時株主総会の決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託口が保有する当社株式に対する配当金14百万円が含まれています。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年11月5日 取締役会	普通株式	3,391	利益剰余金	20	2020年9月30日	2020年12月2日

(注) 2020年11月5日取締役会の決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託口が保有する当社株式に対する配当金13百万円が含まれています。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年6月18日 定時株主総会	普通株式	30,520	利益剰余金	180	2021年3月31日	2021年6月21日

(注) 2021年6月18日定時株主総会の決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託口が保有する当社株式に対する配当金125百万円が含まれています。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年11月4日 取締役会	普通株式	33,910	利益剰余金	200	2021年9月30日	2021年12月1日

(注) 2021年11月4日取締役会の決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託口が保有する当社株式に対する配当金118百万円が含まれています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ライナー&ロジスティクス事業			不定期専用船事業	その他事業		計	調整額(注1)	四半期連結損益計算書計上額(注2)
	定期船事業	航空運送事業	物流事業		不動産業	その他の事業			
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	79,404	51,064	234,363	317,872	3,107	36,218	722,031	-	722,031
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,935	3,423	703	125	381	22,603	29,172	29,172	-
計	81,340	54,488	235,067	317,997	3,489	58,821	751,204	29,172	722,031
セグメント利益又は損失()	28,459	13,249	8,144	185	1,379	1,535	49,883	2,455	47,428

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額の内容は、セグメント間取引及び振替高に係る調整32百万円、全社費用2,487百万円です。なお、全社費用は、特定のセグメントに帰属しない一般管理費及び営業外費用です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っています。

3. 「一般貨物輸送事業」は2021年4月1日より「ライナー&ロジスティクス事業」へ名称を変更しています。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	ライナー&ロジスティクス事業			不定期専用船事業	その他事業		計	調整額(注1)	四半期連結損益計算書計上額(注2)
	定期船事業	航空運送事業	物流事業		不動産業	その他の事業			
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	91,723	84,477	376,283	456,805	2,358	39,733	1,051,381	-	1,051,381
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	2,282	5,270	1,049	131	111	32,016	40,862	40,862	-
計	94,005	89,748	377,332	456,937	2,469	71,749	1,092,243	40,862	1,051,381
セグメント利益又は損失()	290,394	33,035	28,418	47,712	1,217	1,748	399,029	1,782	397,246

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額の内容は、セグメント間取引及び振替高に係る調整31百万円、全社費用1,813百万円です。なお、全社費用は、特定のセグメントに帰属しない一般管理費及び営業外費用です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っています。

3. 「一般貨物輸送事業」は2021年4月1日より「ライナー&ロジスティクス事業」へ名称を変更しています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

(会計方針の変更)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しています。

これにより、当第2四半期連結累計期間の外部顧客に対する売上高は、不定期専用船事業で15,416百万円増加し、セグメント利益又は損失は、不定期専用船事業で1,850百万円増加しています。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間の損益計算書に計上している「売上高」は、主に「顧客との契約から生じる収益」です。それ以外の源泉から認識した収益は、主にリース取引に係る金額であり、その金額に重要性がないため売上高に含めて開示しています。

2. 収益の分解情報

分解した収益については、「1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載しています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	131.37	2,435.15
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	22,180	411,319
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	22,180	411,319
普通株式の期中平均株式数(千株)	168,846	168,909

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(1) 2021年11月4日に開催された取締役会において、第135期の中間配当に関し次のとおり決議しました。

中間配当金の総額	33,910百万円
1株当たりの金額	200円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2021年12月1日

(注) 当社定款第51条の規定に基づき、2021年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、支払いを行います。

(2) 訴訟事項については、「1 四半期連結財務諸表 注記事項(四半期連結貸借対照表関係) 2. 偶発債務」に記載した事項の他、2017年6月17日(日本時間)に静岡県下田沖にて発生した当社が用船・運航するコンテナ船「ACX CRYSTAL」とアメリカ海軍イージス艦「FITZGERALD」が衝突した事故に関連し、米国において、「FITZGERALD」船員のうち当該事故による死亡者の遺族及び負傷したと主張する者等から、総額3億8百万USドルの損害賠償等を求める訴訟を提起されています。現在までに、第一審及び控訴審の裁判所より訴えを却下する趣旨の判断が示されましたが、2021年7月2日(米国現地時間)に、控訴審である米国第5巡回区連邦控訴裁判所は本件の再審理を行うことを決定しました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月11日

日本郵船株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	北	村	嘉	章	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	隅	田	拓	也	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	柴	田	勝	啓	印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本郵船株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結貸借対照表、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本郵船株式会社及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しています。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。